

G20女性活躍担当大臣会合における STEM分野・女性デジタル人材に関する議論について

資料 5



会合の様子

○ 8月26日、G20では初めてとなるジェンダーに関する閣僚級の会合「G20女性活躍担当大臣会合」が開催され、女性の経済的なエンパワーメント（自立する力）の課題や取組等について議論。また、今般のアフガニスタンの情勢を受け、アフガニスタンの女性に関する閣僚会合もあわせて開催。

○ 日本からは、丸川大臣がオンラインで参加し、特に経済分野における意思決定層への女性の参画拡大と、その実現のための官民連携の重要性、また、第5次男女共同参画基本計画で掲げた58の登用目標の達成のための具体的取組や、STEM分野（科学、技術、工学、数学）への進路選択の支援、人生100年時代における女性のエンパワーメントの必要性について発信。

○ 会合では、議長国イタリアの提案の下、特に取り組むべき分野横断的な取組として、以下の2つのテーマを設定。

- ① STEM・デジタル・金融リテラシー及び環境・持続可能性
- ② 労働・経済のエンパワーメント及びワーク・ライフ・バランス

○ 会合終了後に公表された議長声明においても、「STEM・デジタル・金融リテラシー及び環境・持続可能性」が一つの柱として取り上げられ、以下の議論が行われた。

- ・ 現状として、男女間でデジタル格差が存在し、STEM分野における女性の参加が少ないと認識。
- ・ このため、STEM教育について、幼児期から中高生、高等教育における実施や、雇用のための訓練が重要。
- ・ また、デジタルトランスフォーメーションの過程を通じて、新たに生まれる雇用機会を女性が最大限利用できるよう、関連施策を強化・発展する必要性について意見が一致。
- ・ その際、固定的性別役割分担意識をなくすことが不可欠。